



カトリック町田教会
町田市中町3-2-1
電話 042-722-4504
FAX 042-722-4512

いかずちの子

http://www.machida-catholic.jp/



「心を尽くし、知恵を尽くし、力を尽くして神を愛し、また隣人を自分のように愛する」ということは、どんな焼き尽くす献げ物やいけにえよりも優れています。
マルコ 12:33

食卓の靈性

助任司祭 田中 昇

聖書の世界において、日常の食事を分かち合うこと以上に他者との関わりを確かなものとするのに優れた方法はありませんでした(創世26・30、サムエル上9・24)。イスラエルの神との契約関係でさえ、神のみ前で食べて飲むことで祝われました(出エジプト24・11)。そしてメシアの待望のテーマも、しばしば彼がもたらすであろう豊かな祝宴にそ

の中心が置かれていました(イザヤ25・6、55・1)。同じように、イエスはあらゆる人達と食卓を囲みました(マタイ9・10、ルカ5・29)。またイエスは、出エジプトの時のように、荒野において大勢の人々と晩餐を行いました(マルコ6・35、ヨハネ6・1、15)。それらの食事の究極的な到達点が最後の晩餐(マタイ26・26、マル

コ14・22、26)です。イエスと食事を共にした人々は、心も体もキリストの愛に満たされ(マタイ14・20、マルコ6・42)、励まされ、癒されたのです。私たちは、いつも主の食卓を囲むミサにおいて、キリストが語る言葉と、キリストが差し出してくださる命の糧を、教会という家族の中で共に分かち合っています。教会の最小単位は家庭ですから、私たちの日常の食卓も、この主の食卓の延長線上にあるように招かれています。

ところで、私達にとって食事というものは、本来、材料そのものの価値、生きている素材の命を「いただきます」と言って頂くものです。同時にそれぞれの料理には、作つた人の思い、気持ちが含まれていて私達はそれも頂いています。特に日本人は、料理に相應しい食器、あるいは食事の環境、作法というものにも大変気を配ってきました。それによって素材の命を、調理してくれた人の心と共に、私達の力、命の糧となるように気持ちよく美味しく頂く、神が下さった命を感謝して頂く、という気持ちを、日本人は文化の中で昔から大切にしてきたように思います。また食卓の会話というものも、ある意味で、私たちがお互いを

尊重し合いながら交わりを深めていくこと、心の安らぎを得る食事の大切な要素です。人間にとって食事の席ほど、人が互いに打ち解け合える場もないでしょう。ところが現代社会では、大人から子供まで、そのような食卓の感覚というものが大変希薄になってきているように思います。それは経済効率最優先というモノの考え方や、自己中心的な社会の風潮など様々な理由によるものではないかと思えます。物の豊かさ、便利さとは裏腹に、人間の心と体の癒し、交流の場としての食卓に対する意識は非常に貧しいものとなってきているように感じます。しかし食卓の持つ質、食卓の靈性といえるものが、貧しくなればなるほど人間の質の低下は否めません。なぜなら霊肉共に私たちの生きる力は、食卓からくるからです。それは食材が贅沢かどうかの問題ではなく、食卓そのものの質のことで、それが貧しくなればなるほど生きることに對する意識、命に對する価値観も乏しくなっていく危険性があるのです。イエスは、私達が神から与えられた命をそれに相應しい愛の心で生きるように、命を豊かに生きるように、十字架の上で捧げ尽くしたご自身を私

達に与えて下さっています。その限らない愛をイエスは命のパンであるご聖体という糧として、教会の祭壇、主の食卓を通して私達に与えて下さっています。そうして私たちは、現実には差し出される神の愛、真心、命をしっかりと身に受けて霊肉共に豊かに生きるよう力づけられています。私達は問われています。私たちは自分の命を、何のためにどのように大切に生きようとしているのか? 自分を養う食事をどれほど価値あるものだと思っただけで食しているのか? さらに言えば、その食卓の大切さ、生きることの大切さを次の世代に私たちがどのように伝えていくのか? 家庭の食事もミサという食事、機械的で刺激だけが強いファーストフードではありません。ましてやご聖体は、自分の都合に合わせて「食べる」単なるモノではなく、無条件に差し出された神の無償の愛、恵みとして、心から感謝して「拝領する」ものです。神は、世界を愛と慈しみで満たそうと、その働き手として私達を力づけて世に遣わしています。そんな神の心を感じながら、しっかりと日々の食卓を大切に生きていきたいものだと思います。

# フィリピンについて

## 運営委員

6の2ブロックから選出され、今年度から運営委員を務めさせていただくドンドンです。フィリピン出身です。

主任司祭・助任司祭、そして町田教会の方々、特に日本語教室の先生方やウエルカムテーブルの方々の優しい心遣いやサポート等のおかげで、私達フィリピン人をはじめ外国人信徒は、安心して御ミサにあずかれるので、大変ありがたく思います。私達も積極的に教会活動に参加し、お役に立てるよう、努力していきたいと思えます。

「フィリピンについて書きませんか」という依頼でしたので、ここではフィリピン人の起源と、フィリピンはどのようにキリスト教の国になったのかについて、短く紹介したいと思います。

フィリピンの先住民は、アボリジン族でした。パプアニューギニアに住んでいる人達に似ている彼らは、約3万年前に、陸橋を渡ってフィリピンにやって来たと言われています。今も、何箇所かの山の奥で、昔と変わらない暮らしをしていて、彼らを見る事ができます。ただ、様々な事情で、彼らの数は減少傾向に

## パリスノモ・ドンドン

あります。

アボリジン族の後、今から約5千年前に、マレー族が数回に分かれてやって来ました。彼らは概ね、現代のフィリピン人の祖先に当たります。彼らの後は、少数ながら、中国からの部族もやって来たと言われています。

そう言った背景で、フィリピンは複数の民族が混じり合う国となりました。この事から、今のフィリピン人が、なぜいろいろな顔をしているのか、ご想像がつくでしょう。

次に紹介したいのはキリスト教についてです。キリスト教は、スペインのマゼランによつて、1521年にフィリピンに伝えられました。もしマゼランがフィリピンに来なければ、フィリピンはきっとイスラム教の国だったでしょう。というのも、10〜12世紀に、既にイスラム教はフィリピンに伝えられていて、1565年、マニラにはもうイスラム教徒がいました。スペインはフィリピンを植民地化するために大勢の兵士を送り込みました。イスラム教徒達はフィリピンの南に押され、その結果、フィリピンのほぼ全土はキリスト教となりました。

スペインの支配はその後300年間続きました。現在、プロテスタントを含め、フィリピンの人口の92%はキリスト教徒です。

## 財務報告

財務委員 奥村 耕平

平素は財務面でいろいろご協力頂きまして誠に有難うございます。10年財務状況の概要をご報告させて頂きます。財務状況は、『健全』であります。日頃からの皆様のご献金の積み重ねのおかげであり、心より感謝申し上げます。

10年の収入予算は、総額で2850万円計上し、8月末時点で66%の進捗で、ほぼ予定通りです。項目別にみると収入の半分近くを占める『月定献金』が1080万円の予算に対して67%進捗です。次に多い『建設管轄・積立金』は780万円の予算に対して55%と低調ですが、『ミサ献金』520万円予算は76%進捗です。『月定献金』『建設・管轄積立献金』は少し低調ですが、ミサ献金等でカバーして全体ではほぼ予定通りとなっております。いつもミサで多くの献金を頂いております。一方、支出予算は総額で2001万円を計上し45%進捗です。支出は、9%も抑えて頂いております。支出の多い

# 国際日本語教室

外国人に日本語を教える活動グループをルポ(三世永)

日本の社会が国際的になるにつれ教会も外国人が増えました。日本語は日本で生活するのに必要です。



代表の教員 萩原さん 第5日曜日担当

スタートは大倉神父のときでその後一休休止高本神父のとき再開!

授業は毎曜日(8月を除く) 第2ミサ後 応接室(第2)で 約1時間

2007年4月1日に シスタ・高尾・池田さん から パトナッチ

フィリピンの方が多く

現在 先生は7人

2冊のテキスト使用



項目は、『本部献金』は予算600万円の26%、事務運営費』予算は420万円予算に対して55%進捗、『宣教司牧費』は360万円予算に対して59%の進捗です。『維持管理費』は玄関列柱の修理費用を大目に予算化し391万円の43%進捗です。

10年予算で収入 支出 850万円の繰越金を作ることを計画しており、その内訳として、780万円は『営繕積立金』であります。

新しい町田教会も建って、10年を迎えようとしております。改善を必要とする箇所がいろいろ出てきております。また、施設管理委員会の報告では、将来の営繕費用に総額で2億7千万円が必要と報告されています。『建設・営繕積立金』として別勘定でしっかり積立を行ってゆきます。

建設借金の返済が終わり、誠に恐縮ですが、今年も少し低調な『建設・営繕積立金』へのご協力をよろしくお願ひ申し上げます。新しく町田教会にいらつしやうした方にもご理解頂きまして、『月定献金』『建設・積立金』へのご協力をお願い申し上げます。献金の方法は振込み等の方法もありますので、財務委員や受付係にお問い合わせ下さい。

### 夏期学校

リーダー 島田 和人

今年も8月6、8日、二泊三日の日程で御岳山で夏期学校が行われた。

1日目、教会に集合しバスで御岳山のふもとまで移動する。バスの中では歌を歌ったりおやつを食べたりして楽しんだ。例年ならばふもとから登山を行うが、今年は異常な暑さということもあり全員ケールカーで登る。子ども達は大喜び。山荘に到着後持ってきたお弁当を食べ、オリエンテーション。夕方から大広間でゲーム大会を行い、夜は花火大会。花火大会では手持ち花火のほか、吹き上げ花火をみんなで観賞する。

2日目は朝からロックガーデンまでハイキング。ここでは、ちよつとした水遊びがで



きる(ちよつとした水遊びで終らないこともあるが...)。夕方からは外でゲーム大会。夜は最後のイベントのキャンブファイヤー。火を見ながら歌ったり踊ったり最後はチクサクコールで締める。

3日目は山荘でミサを行い下山。下りは例年通り歩いて下山した。ふもとからはまたバスに乗り、行きと同じく歌やおやつで楽しみながら教会にもどった。ここ数年の夏期学校は悪天候が続いたが、今年3日間通して雨が降ることもなく、外でのイベントが楽しめる夏期学校でした。

小3 宮永 かい

今回ほくは、3回目の夏期学校でした。教会からバスにのり、「いこい山そう」に行きました。そしてゲーム大会をしました。とくにデンゴンゲームがおもしろかったです。つぎの日は、ハイキングの日でした。『ゴットスターズ』という8人のメンバーで歩きました。とちゅうで川に入りました。川の水はキレイでした。川の水はつめたかったです。夜のはんは広いリビングで大ぜいで食べました。おいしかったです。ねる前にキャンブファイヤーをしました。火がとても大きかったです。

## ワンポイント聖書

(178)

前島 誠

神の言われることはすべて清い。身を寄せれば、それは盾となる。み言葉に付け加えようとすると、責められて偽る者と、断罪されることのないように。

箴言30章5〜6

ヘブライ語聖書原典のタイトルは、その多くが原文の書き出しの言葉によって呼ばれています。

今回引用した『箴言』のヘブライ語タイトルは『ミシュレー』で、その語根はマシヤール。「たとえ」「ことわざ」「格言」などを意味します。本書の冒頭の一句は、『イスラエルの王ダビデの子、ソロモンの箴言』

(ミシュレー)でした。さて引用の三行目をご覧ください。「み言葉に付け加えようとすると、と聖書は言います。中身は何でしょう。エデンの園で蛇の問いに女は答えます。「園の中央の木の実だけは食べるな。触れるな。死んではいけないから」と、神は言われました。このうち傍点のケ所は女の余計なつけ足しでした。神は「触れるな」とは仰言っています。(創世2・17)

われわれもウツカリすると、この時の女のように、余分な付け加えをしてしまいがちです。より安全に自分の立場を守ろうとするためでしょう。折に触れて、心したいものです。



リーダーのメンバーともおどりました。ぼくは夏期学校がすきです。すごく楽しかったです。ねるときに日記を書きました。さいごにリビングでいのりをしました。

小6 プシホゼン 志文

ぼくは、8月6日みたけ山にいきました。のぼるときはケープルカーだったけど、リよかんはいごちがよかったです。ぼくは1班の班長で、班のチーム名を『ゴットスターズ』にしました。

2日目、ぼくたち1班は山のたんけんにいきました。大きな岩では、上にてんぐの人数がある、ということを使いこリーダーからききました。たくさん歩いて川をみつめて、たくさんあそんだあと、ごはんの時間になりました。たくさんわんや、うめぼしなど、いろいろおいしかったです。またいきたいです。

### 洗礼を受けて

高鶴 紀子

皆様こんにちは。高鶴紀子と申します。この度、聖母被昇天の日に洗礼を授かりました。私の洗礼名は「ブリジッタ・セシリア・ファンシア・マデレーン・スヴェリエ・ミカエラ・パトリシア」といいます。洗礼名が長くなつてし

まったのには理由がありません。それは私が本当に洗礼を望んでいたためにその思いが募り、その結果、洗礼名が長くなつてしまったということです。やつと洗礼が決まり、今までの思いが溢れて洗礼名が長くなつてしまいました。

洗礼を授かるにあたって、神父様や代母、教会の皆様にもいつも温かく見守って頂き、また、たくさんアドバイス等を頂き、とても感謝しています。やつと皆様の共同体の一員となれました。これからは神様に全てを委ねる努力をし、そして私の洗礼名に選んだ聖人や人物に見倣い、また保護も受けながら、キリスト者として神様との生活を続けていこうと思います。まだまだ至らぬ身ですので、どうぞ皆様、これからも、ご助言等、よろしくお願い致します。

### 厨房の改善に向けて

9月19日(日)に運営委員会と施設管理委員会の主催で、厨房改善の検討状況に関する報告会がありました。

町田教会ではミサ後にさまざまな活動、会合、交流がおこなわれ、活力のある教会になっています。これを支えているのが活動グループによる飲食のサービスですが、現状では厨房が狭く、安全面での

問題が指摘されてきました。施設管理委員会から現在の状況や他教会の見学結果を踏まえた報告がなされたあと、厨房と厨房準備室をひとつのスペースとして活用し、安全・安心な厨房の設計を目指す方針が提案され了承されました。11月の臨時信者総会で計画書の審議をおこない、2月に工事開始、3月から新しい厨房が利用できる予定とのことです。



### 犠牲献金 中高生会

8月1日 9,223円  
(ペロニカ苑へ)  
9月5日 6,888円  
(ペロニカ苑へ)

「雷の子」次号編集会議予定

10月31日(日)09時30分

於会議室

## 信者動静

2010年7月～9月

(個人情報のため、削除しています)